

令和5年度学校評価総括表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度			評定
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員研修を充実し、意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ、教育環境を整備し、特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き、校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。 (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ②本校教育への理解と関心を高めるための積極的なPR ③教職員間の協力体制の強化 ④学校行事の公開 ⑤地域貢献, ボランティア活動の推進	評価指標 ① 職員研修会の実施回数 10回 ②-1 体験授業の参加者数 320名 ②-2 PTA総会参加率30% PTA役員会2回 PTA研修会1回 ②-3 学校ホームページのアクセス数 1,000,000アクセス(870,837アクセス) ②-4 マスコミなどへの学校活動の広報 30回(26回)	評価指標の達成度 ① 職員研修会の実施回数 12回 ②-1 体験授業の参加者数 305名 ②-2 PTA総会参加率32.1% PTA役員会3回 PTA研修会校外3回 ②-3 学校ホームページのアクセス数 1,287,122回(2月21日) ②-4 マスコミなどへの学校活動の広報 30回	A B A A A	A (所見) ① コンプライアンス研修会や情報セキュリティに関する研修会等を短時間で複数回に分けて実施するなど、現状に応じた教職員の資質向上を図った。 ②-1 コロナ禍以前の形に戻し、体験授業と体験入部を同時に実施した。 ②-2 コロナウイルス感染予防対策を徹底し、体育館でPTA総会を実施することができた。保護者の参加率も昨年度より15%増えた。 ②-3 野球部が甲子園に出場したこともあり、アクセスは昨年度よりも上昇した。一日平均4,857アクセスとなっており、順調に推移している。 ②-4 コロナ禍以前の形に戻ったため、学校活動は活発である。しかし、学校ホームページの更新回数が少なかった。 ③ 学校運営等について全職員が協力的に関わることで、教育活動全般において成果を上げることができた。 ④ 学校行事では限定公開という形で学校祭を実施し、保護者や兄弟が参加できた。 ⑤ 各種ボランティア活動参加数においては目標数を上回ることができた。清掃活動参加数においては、部活動ごとの自主的な活動と、ひまわりを植えたり、水やり、種の収穫を主に行った。活動を通して阪神淡路大震災を振り返る機会を得て、災害を教訓とすることができた。	① 現在取り組んでいる研修を継続するとともに、教育活動に必要な教師に求められる資質・能力・ICTスキルを身に付けられる研修を実施する。 ②-1 中学生が色々な授業を体験できるように、時間と教室等の組み合わせを改善したい。 ②-2 学校と保護者との連絡・協力はより一層密にし、感染症対策にも配慮しながら、文化祭バザーや研修会を充実させたい。 ②-3 学校ホームページの更新が課題である。各分掌や部活動での積極的な更新に努めたい。 ②-4 今後もホームページ、マスコミなどへの広報を積極的に行いたい。 ③ 各校務分掌や各学年に計画力と実行力のあたる主任を配置することで、協働的な組織体制を更に構築する。次世代のリーダーを育成する長期的な計画と取り組みが必要である。 ④ これからの学校行事は、ホームページや生徒会を中心にアピールに努めたい。専門高校としての特色ある学校行事を目指し、さらなる工夫・改善を図っていききたい。 ⑤ 来年度も各種ボランティア活動や清掃活動を行い、積極的な態度の育成や美化に努める心を育てたい。また、ひまわり畑の草抜き、整備などを通してできるだけ多くの生徒が関わられるような取組を目指したい。
		活動計画 ① 各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 PTA総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確実に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ 報告・連絡・相談を徹底するとともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。	活動計画の実施状況 ①教育委員会によるコンプライアンス研修など各種研修を行い、職員の資質向上を図った。 ②-1 コロナ禍以前の形で体験入学を実施できた。 ②-2 PTA総会や役員会等、保護者への連絡は文書と併せLINEやメールで確実に届けることができた。 ②-3 野球部が甲子園に出場したこともあり、ホームページのアクセス数が大幅に増えた。一方、各分掌や各部活動の更新回数が伸びておらず、対策が必要である。 ②-4 ホームページの更新回数が少ないのが現状であり、学校行事や部活動の結果等を積極的に発信する必要がある。 ③ 各課とも、必要に応じてミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。 ④-1 新型コロナが5類変更に伴い各種の行事や活動が緩和され、学校行事や部活動等の取材を受けることが増えた。 ④-2 新型コロナ5類以降に伴い、今年度の学校祭は例年通りの開催に戻りつつあったが、公開については保護者や兄弟のみの公開で行った。 ⑤ 今年度は春の清掃活動の際に、「はるかひまわりプロジェクト」の活動として、ひまわりを植えて育てるボランティアを実施した。			

【備考】評価における「評定」の基準 A:100%達成 B:80%以上達成 C:80%未満~70%以上達成 D:70%未満~60%以上達成 E:60%未満達成

令和5年度学校評価総括表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価			
2 学習指導の改善 (商業教育および校務分掌別の取り組み)	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展	評価指標 ① 自習率 1.0%以下 (0.19%) ② 授業満足度 80%以上 ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 40名 (35名) ③-2 技能奨励賞 45名 (44名) ③-3 日商簿記検定2級合格 10名 (11名) ④-1 図書館利用者数 3,300名 (3,370名) ④-2 一人あたりの年間読書冊数 4.7冊 (4.5冊) ④-3 一人あたりの年間貸出冊数 3.3冊 (3.1冊) ④-4 図書館通信の発行回数 12回 (12回) ⑤-1 地域連携活動テーマ数 5テーマ (4テーマ) ⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品 (5商品) ⑤-3 実践的授業の実施数 5回 (5回)	評価指標の達成度 ① 自習率 0.21% ② 授業満足度 87.3% ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 50名 ③-2 技能奨励賞 19名 ③-3 日商簿記検定2級合格 4名 この枠内データ全て 1/31(水)現在 ④-1 2,863名 (87%) ④-2 3.74冊 (2657冊/711名) (80%) ④-3 3.03冊 (2195冊/724名) (92%) ④-4 12回 (100%) ⑤-1 地域連携活動テーマ数 4テーマ ⑤-2 市場流通可能な商品開発数 5商品 ⑤-3 実践的授業試行数 5回	評定 A A A B B B A A A	総合評価 B (所見) ① 学校行事等は平時に戻ったが、依然新型コロナウイルスおよびインフルエンザが流行する時期があり、自習率はほぼ横ばいとなっている。 ② 全学年で、授業に対する満足度は昨年度より増きたと感じている生徒が増えている。 ③ 早朝補習や検定前1週間に放課後補習等を実施し検定の合格者増に取り組んだ。その結果、全商3種目以上1級合格者数は増加傾向にある。補習に頼らない自宅学習の充実など、自主的に学習する環境の整備も必要である。 ④ 「学級文庫」の設置やPOPの展示、「図書館通信」の配布など様々な取組等を行ったが、図書館入館数や年間貸出冊数、年間読書冊数ともに前年度より減となった。コロナ禍が明けたことと、スマートフォンの普及も一要因と考えられる。 ⑤ 校外徳商デパートでは、できるだけ多くの生徒に地元企業との連携を体験させるとともに、地域に貢献できる実践力を養うことに繋げている。企業関係者と交渉する能力は、校外徳商デパートを通じて確実に育成できている。 徳商デパートでは、地元の食材を利用した商品を開発しマツシゲートを会場に販売を行った。ICT等を用いた実践的授業への取り組みは、商品開発、課題研究、総合実践、ビジネス情報管理、デジタルアートの各科目において展開した。	① 教員の配置の工夫やカリキュラムのマネジメントなどに努力が感じられる。 ② 生徒用タブレットの不具合による影響を色濃く感じる。 ③ 1については昨年度の結果を大きく上回っており、50名は素晴らしい結果。日商簿記検定2級は近年難易度が上がっており、仕方ない部分もある。簿記は社会からの需要があるのだと感じる。 ④ 新しい視点での評価基準も必要かもしれない。電子端末の普及に伴い、紙の本の利用はさらに減っていき、今後評価はさらに厳しくなってしまうかもしれない。 ⑤ 評価内容で用いられているキーワードがすばらしいので、個々の達成率などあれば知りたい。徳商デパートで販売された商品を実際に食べたが大変おいしかった。生徒と企業の努力を感じることができた。	① 可能な限り授業振り替えを実施しているが、校務の多様化もあり、年々振り替えが困難になっている。 教職員の負担軽減に向けた検討も必要である。 ② 平日の自宅学習時間が0の生徒が全体の約25%を占め、1時間までの生徒を含めると約85%であり、なかなか改善が進んでいない。通学距離や部活動の活動時間を考えても1時間から2時間程度の継続した自宅学習時間の確保は必要である。 ③ 高度資格については、授業や補習だけでは限界がある。1年次から自宅学習時間の確保に努めるとともに、適切な課題等を出すことにより学習意欲の向上と定着を図る必要がある。その一助として、商業系部活動への入部を促進し、1年次のオリエンテーションや各学年集会を通して資格取得の重要性を認識させたい。 ④ 読書離れの傾向が加速する中、図書委員会をより活性化させ「学級文庫」の取組や館内及びロビー展示を充実させ、各教科や各学年と協働し、よりいっそうの読書活動を推進したい。 ⑤ ホームページ作成支援活動や徳商デパートによる商品開発は、コロナ前の活動に戻して展開することができた。また、6次産業化実践教育ステップアップ事業については、新たな藍染め作品を3校において共同で製作し、知事のもとに届けることができた。これらの活動経験をもとに工夫と改善を行うことにより商業の専門高校として特色ある学校づくりに努め、商業教育の中心校として責務を果たしていきたい。
		活動計画 ① 学校行事の精選を行い、落ち着いた学習環境を整え、授業時数の確保を行う。 ② 「学力向上」実現のため、生徒の実態にあった指導方法の工夫を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、本が身近にある環境を作る。運営は図書委員を中心に行う。 ④-2 各教科と連携し、図書館の利用を推進する。 ④-3 「図書館祭」「おすすめの本の紹介」等を充実させ、読書の啓発活動を推進する。 ④-4 「図書館通信」を通じた広報活動を充実させ、生徒が気軽に入館できる図書館作りを推進する。 ⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施	活動計画の実施状況 ① 日程調整や時間割の工夫で、授業時数の確保に尽力し、落ち着いた学習環境を整えることができた。 ② 電子黒板を活用して、わかりやすい授業の展開ができたが、タブレットの使用については不具合の台数が増え、活用できなかった。 ③ 早朝補習や長期休業中の補習などを計画的に実施した。また、情報処理・簿記検定前1週間は放課後1時間程度の補習を実施することにより、検定合格への対策と生徒の意識向上を図った。 ④-1 「学級文庫」を各HRに設置し、各学期に二回程度図書委員による本の借り換えを実施した。 ④-2 国語科等の授業を中心に、図書館を適宜利用した。 ④-3 「図書館祭」では、図書委員等による「おすすめ本」及び3年生校内設定科目である「総合選択」科目の「小論文・国語表現」選択者が作成したPOPや北海道旅行ガイド等をロビーに展示した。 ④-4 「図書館通信」を毎月発行し、全生徒に配布した。新刊図書の内容や先生方及び図書委員による「おすすめ本」を紹介し、入館を促した。 ⑤-1 校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部を中心に、地域や企業と連携した活動を積極的に展開した。徳島県高校生フェスに出店し、地域社会や企業等				

		と連携した教育活動を積極的に広報した。 (展開活動) ・環境首都あどぶと・エコスクール ・地元企業Webページ作成支援 ・6次産業化実践教育ステップアップ事業 ・商品開発		
	⑤-2 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施	⑤-2 地域企業等と連携し、地産地消を意識した商品開発に取り組んだ。 (開発した商品) ・徳弁 ・うずしおキンパ ・おいもプリン ・うずしおカップケーキ ・しっぽドーナツ ・いもむしばん を含む全8品目		
	⑤-3 ICTや効果的な教授法等を導入した主体的・能動的な学びの実施	⑤-3 商業科の授業の中で、ICTの技術を活用し、主体的に課題に取り組んだ。 ・商品開発 ・課題研究 ・総合実践 ・ビジネス情報管理 ・デジタルアート		

【備考】評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和5年度学校評価総括表

徳島県立徳島商業高等学校 No.2

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評定		
2 学習指導の改善 (商業科を除く教科別)	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を図る。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤実践的・体験的な学習の充実・発展	評価指標 【全教科共通】 ・ICTや効果的な教授法を導入して、生徒の主体的で深い学びを導く (国語)・課題提出率98%以上 ・漢検受検者延べ400人以上 (地歴)・課題提出率95%以上 ・広い視野に立って物事を考察できるための基礎的知識と学力の定着を図る (公民)・課題提出率98%以上 ・ICT活用により関心を高め、知識の定着を図る。 (数学)・課題提出率98% ・単元によっては積極的にICTを活用する。 (理科)・単元毎にICTの活用をし、ワークシートなどで理解度を確認する ・定期考査得点率60%以上 (保健体育)・救急救命法や妊娠、出産に関する講演会の実施 ・生涯体育につながるような運動の基本技術の習得 (芸術)・演奏や作品の発表を2回以上行う。 ・発表では自己評価、相互評価を取り入れる (英語)・全商英検3級合格80%以上 ・ペア及びグループ活動を通して主体的に表現する機会を増やし、相互評価する。 (家庭)・課題提出率100% ・ICTや実験実習を積極的に取り入れ知識の定着を図る	評価指標の達成度 【全教科共通】 ・ICTの活用が定着化し、生徒の主体的な学びに繋がる教授法の工夫が進みつつある。 (国語)・課題提出率98%以上達成 ・漢字検定受検者は延べ440名 (地歴)・課題提出率95%以上達成 ・基礎的知識と学力が十分に定着できておらず、考察するところまでいかなかった。 (公民)・課題提出率は98%以上達成 ・ICT活用により関心をやや高めたが、知識の定着は厳しい。 (数学)・課題提出率はほぼ100% ・ICTを有効に活用できた。 (理科)・視聴覚教材、プレゼンテーションソフト等を活用した授業を実施。振り返りシートを活用し、理解度の把握に務めた。 ・定期考査の得点率は科目やHRで差があり、50～70%内で推移 (保健体育)・救急救命法及び妊娠・出産についての講義を行った。 ・運動の基本技術を習得できた。 (芸術)・演奏や作品発表を各学期2回行い、学期末には自己評価、学年末相互評価を取り入れた。 (英語)・全商英検3級合格率は77%であり、80%に少し及ばなかった。 ・ペアワークやグループ活動、パフォーマンステストを行い総合評価をした。 (家庭)・課題提出率100% ・実験実習を取り入れることを心掛けたが、感染症予防の観点から調理実習は予定通りできなかった。	評定 A A A A A A A B A	総合評価 A (所見) 【全教科共通】 ・電子黒板の利用等が進む一方、新たなタブレット導入を受けて、職員のICT活用の研修の深化が求められる。 (国語) 第1回漢字検定を1学年及び2年探究科は全員受検とし、対策を実施した。特に第1回は1年を中心に97名が合格することができ、合格率は31.3%であった。 (地歴) 教科書等の準備を徹底したうえで、身近な例から物事を考察する力を育てる必要がある。 (公民) 課題提出等は目標を達成できており、時事問題への関心は高まった。 (数学) データの処理、2次関数、三角比などの学習場面で効果的にICTを活用し、生徒の理解を進めることができた。 (理科) 振り返りを定期的に行うことで、自身の理解をより深めることに繋がった。生徒の主体性を	育成を目指す資質・能力の定着に向け、指導技術や指導方法の情報交換を積極的に行うとともに校内研修を充実させる。 また、タブレットと電子黒板等のICTを活用することにより授業改善を推進する。 学習内容を工夫し、生徒の興味関心を高めるとともに、主体的・体系的で深い学びの授業づくりに取り組む。 (国語) 今後も国語力の伸長につながるようなICT活用を模索するとともに、基礎学力を定着させるための課題や漢字検定への取組を継続していく。 (地歴) 教科書や副教材を積極的に活用し、身近な例から課題を考えさせる。 (公民) 現代社会の課題を知り、対応策を考えようとする態度を育成する。 (数学) 個別指導を重点的に実施すると同時に学習内容が長期間にわたり定着するよう取り組む。 (理科) 実験やICTのさ
		活動計画 【全教科共通】 ・生徒の実態に応じた授業法の工夫と教科内外での情報交換と協働	活動計画の実施状況 【全教科共通】 ・生徒タブレットの配布により、新たなICT活用の取り組みが生まれ、授業やクラス運			

	<p>(国語)・課題，ノートの点検と評価</p> <p>(漢検)・漢検の受検準備をサポート</p> <p>(地歴)・準備物の徹底を図り，机間指導や提出物の点検等を通して学習状況を把握し，個々への指導を充実させる。</p> <p>(公民)・課題，ノートの点検と評価</p> <p>・現代社会の課題に関心を持たせ，自分の意見を表現させる。</p> <p>(数学)・課題，ノートの点検と評価</p> <p>・基礎問題の反復と小テストなどによる細やかな指導</p> <p>(理科)・視聴覚教材等の計画的利用</p> <p>・生徒の実態把握と問題の精選</p> <p>(保健体育)・救命法については欠席者にも後日指導を徹底</p> <p>・選択種目で自己の課題に応じた取組を行わせる。</p> <p>(芸術)・個々の生徒の段階に応じた指導を行い，サポートする。</p> <p>(英語)・電子黒板やタブレットを活用し，効率的に情報を伝える。</p> <p>・個々の活動への指導と支援</p> <p>・全商英検の受検を支援</p> <p>(家庭)・課題の点検と評価</p> <p>・ICTを活用し，実験実習を5/10以上取り入れる。授業の学びが実生活に繋がる指導を行う。</p>	<p>営等での実践が広がりつつある。</p> <p>(国語)・課題等の確認により，学習習慣と基礎力の定着を図った。</p> <p>・受検者に対策プリントを配布，過去問題集を配置する等，サポートに努めた。</p> <p>(地歴)・授業中に必ず副教材を持ってきているか確認した。机間指導や提出物の点検を通して，基礎的知識の定着を図った。</p> <p>(公民)・課題，ノートの点検と評価は的確にできた。現代社会の課題に関しても関心を持たせることができた。</p> <p>(数学)・課題，ノートの点検，小テストを定期的に実施した。基礎問題の反復練習において個別指導を実施した。</p> <p>(理科)・電子黒板を利用し，ICTの活用に努めた。調べ学習によるプレゼンテーションや考査前には演習プリントを利用し，生徒の理解力向上に努めた。</p> <p>(保健体育)・より深い学びの実現のためにICT教材を活用し講義を実施。</p> <p>・種目の選択により，それぞれの課題に応じた取組を行わせた。</p> <p>(芸術)・演奏課題，作品において，個々の生徒の段階に応じた指導を行いサポートすることができた。</p> <p>(英語)・授業(1,2年生)で各級の単語学習と確認テストを取り入れ，問題集等を活用し，英検対策を行った。</p> <p>(家庭)・学びが実生活に繋がっているかどうかの確認は難しいが，生徒たちの授業への積極的な意欲は感じられる。</p>	<p>客観的に図ることが次年度の課題である。</p> <p>(保健体育) ICTを積極的に活用することができた。知識や技術を活かす能力を体得させることが課題である。</p> <p>(芸術) 演奏や作品発表は授業への動機付けになった。ICTを活用して拡大した作品や奏法を見せたり，作品制作の背景や技法などを映像で理解を深めることができた。</p> <p>(英語) ICTを活用して資料やデータ，英語音声を提示することで，授業が活性化された。</p> <p>(家庭) 生徒たちの学びが実生活に活かされるように教材や時間配当を考え計画した。また，各出張講義や資料などを活用して実生活につながるよう工夫した。</p>	<p>らなる活用によって，生徒の興味・関心を高め，主体的に学習に取り組む態度を養うことで，授業内容理解の深化を図る。</p> <p>(保健体育) 生涯にわたって活用できる知識や技術の習得を心掛ける必要がある。</p> <p>(芸術) ICTの活用をさらに工夫した授業により，生徒の興味関心，意欲の促進と理解の深化を図る。</p> <p>(英語) 全商英検の合格率を向上させるための継続的・効果的な指導が今後の課題である。</p> <p>(家庭) 家庭科で学んだことが実生活に結びつき，自らの生活を見直すことができる力がつくような授業や活動を目指す。</p>
--	--	--	--	--

令和5年度学校評価総括表

重点課題	重点目標	自己評価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価				
3人権教育の徹底	<p>(全体レベル)</p> <p>(1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。</p> <p>(2) これまでの成果を踏まえ，具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに，課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。</p> <p>(3) 学校，家庭及び地域社会と連携を図り，生徒の自主的活動を支援する中で，人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実</p> <p>②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造</p> <p>③教科別人権学習の実施により人権尊重精神の醸成</p> <p>④生徒の自主活動の活性化</p>	<p>評価指標</p> <p>① 教職員人権研修の実施回数 3回(4回)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 教職員人権研修の実施回数 全体研修 5回 学年別研修 4回</p>	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>総合評価</p> <p>A</p>	<p>① 人権講演会では当事者の方々からの講話を聞ければ最も生徒の心に響くのではないかと。可能な範囲で依頼してみたい。</p> <p>また，研修が合計9回行われたことは評価できる。</p> <p>① 1回目 4月7日(金) 職員会議で，昨年度末の生徒アンケート結果の報告，および課題提起を行った。</p> <p>2回目 5月24日(水) 教職員研修会 講師：葛西真記子氏(鳴門教育大学 心理臨床コース) 演題「性の多様性を理解する～ジェンダーとセクシャルマイノリティ～」についてご講演いただき，性の多様性の理解や支援について学んだ。</p> <p>3回目 5月26日(金) 生徒対象講演会 講師：葛西真記子氏(鳴門教育大学 心理臨床コース) 演題「性の多様性を理解する～ジェンダーとセクシャルマイノリティ～」についてご講演いただき</p>	<p>① 多様性を重んじる時代，また変化し続ける社会の中で，新たな人権課題が出てきている。すべての人の人権が尊重される社会を構築するために，すでに認識されている人権課題とともに，時代に合った新たな人権課題についても学ぶ必要があり，そのための教職員研修や，生徒の学習形態の検討が必要である。</p> <p>② 人権問題ホームルーム活動に関して，学年会を開き，共通理解を深められるよう今後さらに取り組む必要がある。</p>
		<p>② 人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習の実施回数 4回(4回)</p>	<p>② 人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習の実施回数 4回</p>	<p>A</p>	<p>(所見)</p>		
		<p>③ 教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回(1回)</p>	<p>③教科別人権学習の実施回数 各教科実施回数 1回</p>	<p>A</p>			
		<p>④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加回数 1回(0回)</p> <p>④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 3回(4回)</p>	<p>④-1 人権に関する研修会(校外)への人権部の参加 1回</p> <p>④-2 人権部員による全校生徒への人権啓発学校放送やプレゼンの作成 3回</p>	<p>A</p>			
	<p>活動計画</p> <p>① 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施</p> <p>② 教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料作成</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 全教職員対象に人権意識高揚に向けた研修会を実施した。 4月7日，5月24日，5月26日，12月14日 3月21日(予定)</p> <p>② 3月21日に教職員研修として，1月24日の</p>					

		<p>③-1 校外で行われる中高生による人権研修会への参加促進</p> <p>③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動の実施</p>	<p>第3回高特人研主事研修会 講演 ケアラーアクションネットワーク協会代表 持田恭子氏のご講演でいただいた、ヤングケアラー啓発資料(あいぼーと制作)を、教職員に配布し、講演内容の趣旨を伝達することになっている。</p> <p>③-1 中高生による人権交流集会への参加を人権部の生徒だけでなく、全校生徒に呼びかけたが、生徒の希望者がおらず、教員2名が参加した。</p> <p>③-2 人権部員による全校生徒への人権啓発活動を実施した。</p> <p>第1回 「障がい者マークを知ろう」のテーマで、マークの意味や障がい者が抱えている不自由な状況等をプレゼンにまとめた。その後人権委員会を開催し、人権部がHR人権委員に説明して合同学習会を行った。そして、各HR人権委員により、各HRでプレゼンを用いて人権啓発活動を行い、全校生徒で障がい者マークを学んだ。</p> <p>第2回 夏休み課題の人権ポスターの優秀作品を校内展示した。</p> <p>第3回 「2024オリンピックパリ大会とSDGs」や、「ツバルの国の水没の状況」を調べ、「環境と人権」の視点から、プレゼンにまとめた。人権部による解説をつけて動画にし、各HRで視聴した。</p>	<p>た。講演後、生徒にアンケートを実施した。</p> <p>4回目 12月14日(木) 3年生生徒対象講演会 講師：井上明美氏 (県人権教育指導員) 演題「誰もが幸せに生きるために～ジェンダーの視点から考える性犯罪・性暴力～」についてご講演いただいた。ジェンダー問題や、デートDV、性犯罪・性暴力についての新たな法律内容を具体的に学び、互いの性を尊重したかかわりについてご講演いただいた。</p> <p>② 学年団で共通理解のもと人権問題ホームルーム活動を実施した。 4月27日(木)(1・2・3年) 5月11日(木)(1年) 6月8日(木)(3年) 11月16日(木)(1・2・3年) 1月18日(木)(2・3年) 2月8日(木)(1年) 3月14日(木)(2年)</p> <p>③-1 中・高性による人権交流集会への参加希望の生徒はおらず、参加できなかった。教員2名が参加した。今後、生徒が積極的に参加するよう促していきたい。</p> <p>③-2 左記のとおり</p>		<p>る。</p> <p>③ 生徒の主体的な活動による人権教育は、大変効果的で全校生徒の人権意識が高められる。今後も、生徒の自主的な活動を継続させたい。</p>
--	--	---	---	--	--	--

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和5年度学校評価総括表

徳島県立徳島商業高等学校 No.4

重点課題		自己評価		学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標		評価指標と活動計画		評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価		
4 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2)基本的生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重んじる態度の育成に努める。 (3)部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ②基本的生活習慣の確立 ③規範意識の高揚 ④部活動を通じた心身の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でのリーダーシップを発揮できる生徒	①-1 生徒指導理解率	①-1 生徒指導理解率	A	A	② 精皆勤率が下がっていることも、学級閉鎖の増加などを考えれば時代に即しているとも考えられるので問題ないのではないか。 ③ 校則については、「子どもたちが考える」ことに意味がある。「変更する」ありきではなく、考えさせる機会としてほしい。	①③ 引き続き、HR活動やSHR時を利用し、人として望ましい振る舞いや行動について考えさせる時間を持つ。また、保護者との連携を図り、個々の生徒に応じたきめ細かい指導を行う。 ② 今後とも皆勤・精勤率の向上に努める。自己の健康管理の重要性を認識させ、絶えず注意を喚起する指導を徹底させたい。 ③ 全校集会をはじめ、学年集会・ホームルーム活動・授業・部活動等学校生活のあらゆる
		教職員 100%(97%) 生徒 100%(97%)	教職員 100% 生徒 91%				
		①-2 身だしなみ達成率 100%(99%)	①-2 身だしなみ達成率 100%				
		①-3 あいさつ実施率 100%(100%)	①-3 あいさつ実施率 100%	B	(所見)		
		②-1 皆勤賞の取得率 50%(45%) 精皆勤賞の取得率 75%(79%)	②-1 皆勤賞 19%(2月13日現在) 精皆勤賞 52%(2月13日現在)				
		②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%)	②-2 遅刻率 0.5%(2月13日現在)				
③ 校則等の遵守意識率 100%(97%)	③ 校則等の遵守意識率 91%	A	② 皆精勤率ともに昨年度より低調な結果となり、目標の数値を維持するこ				
④-1 部活動加入率 95%	④-1 部活動加入率 91%	B					
④-2 壮行会の開催 4回(中止)	④-2 壮行会の開催 5回						
④-3 地域や中学生と交流会の実施 20部活動(9部活動)	④-3 地域や中学生との交流会の実施 9部活動						
④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(13部活動)	④-4 全国大会・四国大会出場部数(秋以降に開催された大会) 13部活動						
	活動計画	活動計画の実施状況					

の育成

- ①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる。
- ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。
- ①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わせるように指導する。
- ②-1 家庭と連携し基本的生活習慣の育成を促すとともに、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに對する意識を高めさせる。
- ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。
- ③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。
- ④-1 部活動加入の継続を図る。
- ④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。
- ④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。
- ④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。

- ①-1 HR活動、学年集会を通して、商業高校に学ぶ生徒として、より良い社会人となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。
- ①-2 各学期および学校行事などの機会を捉えて、各学年での指導を徹底した。
身だしなみ指導実施回数 5回
- ①-3 登下校指導やHRなどを通して、さわやかな挨拶を交わすよう指導した。
- ②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少数であるが遅刻を重ねる生徒に対しては、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。
- ②-2 遅刻指導については、次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。
- ③ あらゆる教育活動を通して道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。
- ④-1 学年が上がるほど加入率は下がるが、ほとんどの生徒が最後まで続けていた。
- ④-2 全校生徒が集合しての壮行会を開催することができ、選手たちの激励を学校として行うことができた。
- ④-3 コロナ禍が開けたことで、少しずつ以前の形に戻すことができている。
- ④-4 野球部の甲子園出場をはじめ多くの部活動が四国大会・全国大会に出場したことで、部活動間での刺激も大きく、生徒たちの活動が活性化された。

- とができなかった。基本的な生活習慣に関する指導を徹底するとともに、今後とも、校門前指導等を徹底しより高めていく。
- ③ 学校全体に高い規範遵守意識が備わっており、意識率も昨年同様、高いレベルで維持することができた。
- ④ 部活動への入部率は減少したが、部活動ごとに地域や中学生との交流会を計画し行った。

- 機会を通して、集団生活や社会生活を送るために必要な礼節やマナーを身に付けさせる。また、各学年と連携して生徒の状況把握に努め、啓発活動を定期的に行う必要がある。
- ④ 四国大会・全国大会への出場部活動数が昨年度に比べて減少しているため、生徒が部活動に力を注ぎやすい環境を作っていく。各部において、今後も切磋琢磨し、全国大会出場部数を増やしていきたい。部活動の成績は、学校全体としての連帯感や愛校心を培うことに繋がってくる。四国・全国大会等で成果を出せるよう、一層取り組んでいきたい。入部率が低下しているが、部活動に3年間継続して取り組めるように工夫したい。

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和5年度学校評価総括表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
5 進路指導の充実	(全体レベル) (1) 自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。 (2) 望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に心じた進路の実現を図る。 (3) 進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。 (詳細レベル) ① 進路指導のガイドライン設定と教職員への周知 ② 進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施 ③ ICTを活用した進路情報の確実な伝達 ④ 個別指導の充実 ⑤ 個性・能力の伸長と適切な進路サポート ⑥ 求人獲得と職場開拓	評価指標 ① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回 ② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回 ③-1 進路資料室の利用クラス 21クラス ③-2 新聞週課題 年間 12回 新聞日誌 年間124日 ④ 進路決定に対する満足度 96% ⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (2学年) 1学期 7日 2学期 27日 3学期 7日 (3学年) 1学期 21日 2学期 32日 ⑥-1 訪問企業数 185社 会社見学 70社 生徒 120名 ⑥-2 就職内定率 100% (100%) 活動計画 ① 各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施 ② 校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施 ③-1 利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達 ③-2 読解力・表現力向上のための新聞を使った活動の導入 ④ 進路実現に向けて生徒の意識づけをするガイダンスを実施 ⑤ 早朝補習の実施 (1学年) 国語(ビジネス探究科のみ) および商業科目の補習を実施 (2学年) 数学(ビジネス探究科のみ) および商業科目の補習を実施 (3学年) 国語・数学・英語・小論文の補習を実施	評価指標の達成度 ① 対教師ガイダンス・研修会実施回数 33回実施 ② 校内進路説明会・相談会実施回数 32回実施 ③-1 進路資料室の利用クラス 15クラス ③-2 新聞週課題 (1・2学年) 年間12回 (3学年) 年間10回 新聞日誌 (1・2学年) 年間124日 (3学年) 年間103日 ④ 進路決定に対する満足度 97.1% ⑤ 早朝補習の実施回数 (1学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (2学年) 1学期 7日 2学期 25日 3学期 6日 (3学年) 1学期 21日 2学期 30日 ⑥-1 訪問企業数(県内) 205社 会社見学 62社 生徒 49名 ⑥-2 就職内定率 100%	評定 A A B A A	総合評価 A (所見) ①② 学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握はできたが、共通理解が不十分な点も見られた。1, 2年生における段階的な進路指導のあり方をさらに強化させる必要がある。 ③ 新聞日誌・新聞週課題の実施により、習慣的に新聞を読む生徒が増えてきた。今後も、思考力・表現力の強化を目指して継続させたい。また、進路室を有効に活用し、生徒が積極的に進路研究を行う機会をさらに増やしたい。 ④ さまざまな状況の変化に対応するために、特に、3学年と就職課・進学課との緊密な連携を図りたい。 ⑤ 年度当初予定から定期考査実施日が変更になったことと積雪の恐れのため、2学期が2日減、3学期が1日減での実施となった。 補習において、検定合格に向けた適切な指導を継続させたい。 ⑥ 生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を深めながら今後も100%を目指したい。 入学後からの系統的な進路指導体制の構築が必要である。各学年団と連携しながら、進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意識付けを図りたい。	①②③④ 学年目標を定め、担任による進路ホームルームを実施する。早期からの進路研究の機会を増やし、ホームルーム担任を中心とした学年団の進路指導体制の充実を図りたい。生徒が自主的に進路活動を進める環境を整え、満足度の高い進路決定につながるよう指導を進めたい。 ⑤⑥ 生徒の希望と適性を見極めた適切な進路指導を心掛けたい。
		活動計画の実施状況 ① 教室掲示を積極的に行うことにより、適切に情報提供を行った。生徒状況の把握と連携について、学年団と相談しながら、効果的な進路指導を継続させたい。 ② 生徒への校内進路説明会・相談会・出張講義を予定通り実施することができた。今後も、出張講義・大学訪問等も含め、積極的に計画・実施したい。 ③-1 就職・進学それぞれの資料をわかりやすく整理した。受験報告書を閲覧する生徒が増えた。クラス単位での利用を全クラスにできるよう取り組みたい。 ③-2 新聞日誌・新聞週課題を実施することで、特に3年生の面接や小論文試験対策につながった。 ④ 進路実現に向けて、早期からの進路研究体制をさらに整えること、また保護者との共通理解を深める必要がある。 ⑤-1 早朝補習の実施 (1学年)6月から1月まで実施。 探究科は、商業・国語、創造科は商業を実施。 (2学年)6月から1月まで実施。 探究科は、商業・数学、創造科は商業を実施。 (3学年)4月から11月まで実施。 国語・数学・英語・小論文を希望制で実施。				

		<p>⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施</p> <p>⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開</p>	<p>⑤-2 休業中補習の実施 (1学年)夏期は商業・英語、冬期は商業を実施。 (2学年)夏期は商業・英語、冬期は商業を実施。 (3学年)就職対策(国・数)、進学対策(国・数・英・小論文)を実施。</p> <p>⑥-1 5月より就職担当教員企業訪問 205社訪問 新型コロナウイルス後で、本年度は県外企業の訪問を再開し、情報交換を行った。</p> <p>⑥-2 生徒の会社見学を延べ62社実施した。</p>			
--	--	---	---	--	--	--

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和5年度学校評価総括表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1) 施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2) ICTの活用等により、教科指導の充実や校務の効率化を図り、教育の情報化を推進する。 (3) 自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会で活躍できる資質を養う。 (詳細レベル) ①ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ②ICTの活用による授業改善と校務の効率化 ③自国の文化及び異文化への理解	評価指標 ① クリアデスク実施率 90%(90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%) ② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 70%(70%) パソコン教室の利用度 100%(100%) 共有フォルダの利用度 100%(100%) ③ 国際交流活動回数 5回(10回)	評価指標の達成度 ①クリアデスク 97.1% セキュリティポリシー遵守率 100% ② ICT活用度 授業でのICT機器利用度 70% パソコン教室の利用度 90% 共有フォルダの利用度 100% ③ 国際交流活動回数 5回	評価 A A A	総合評価 A ① 液晶モニターの導入により、概ねクリアデスクが保たれている。 ② 6つのパソコン教室の稼働率が高い。電子黒板の教科における利用度は年々高くなっている。今年度は生徒タブレットの膨張等の問題があり、教室でのICTの活用に支障が生じた。 ③ 新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく途絶えていたドイツのシェーラベルク職業学校との国際交流が4年ぶりに再開できた。その他、ビジネス探究科2年生や阿波踊り部、英語部も国際交流を実施できるようになり、異なる文化や価値観を学ぶことができた。	② 教員の利用頻度の向上により、指導スキルも上がっていると思う。 ③ ドイツとの交流をはじめとする交流回数5回は素晴らしい。 ① 今後も学期末などの機会を通して、注意喚起を行い、セキュリティのさらなる向上および、情報漏洩等の防止に努めたい。 ② 今後も講習会などを開催し、ICT機器を活用した授業実践を推進していきたい。 ③ 今年度は、海外からの訪問団の受入や生徒の渡航など直接交流が多くできた。今後もこれらの活動を継続し異文化を理解し尊重する態度や能力を持った生徒を育成していきたい。
		活動計画 ①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報漏洩等の防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ② 各教科の特性や生徒の実態を踏まえ、ICT機器を活用した授業実践を推進する。 ③ ・シェーラベルク職業学校来校本校の生徒と国際交流 ・ビジネス探究科2学年 四国大学の留学生と交流2回 ・阿波踊り部 ジャパンエキスポタイランド2024参加 ・英語部 四国大学交流プラザTAG-RI-BAでの国際交流会参加	活動計画の実施状況 ①-1 情報セキュリティポリシーを適宜見直し、情報漏洩等の防止につなげている。 ①-2 校内情報セキュリティの向上のためパスワードの強化などセキュリティ強化を図っている。 ①-3 クリアデスクの呼びかけを実施し、情報資産の取り扱い向上につながった。 ②-1 電子黒板の活用は定着しているが、生徒タブレットの故障が相次ぎ、ICTの活用に支障が生じた。 ②-2 教員用ファイルサーバ及び共有フォルダ等の活用は定着している。 ③ ・ドイツシェーラベルク職業学校来校本校の生徒と国際交流4日間 ・ビジネス探究科2学年 四国大学の留学生本校に来校1回 ・阿波踊り部 四国大学を訪問して交流1回 ・ジャパンエキスポタイランド2024参加5日間 ・英語部四国大学交流プラザTAG-RI-BAでの国際交流会参加1回			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

令和5年度学校評価総括表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育 の推進	(全体レベル) (1) 生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) (2) 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 (3) 整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 (4) 学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 (5) 有権者として、自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。 (詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ③校内美化に向けての実践力の育成 ④環境教育の充実 ⑤主権者教育の充実	評価指標 ①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回) ①-2 3年生を対象として卒業前に「地域人材活用の料理講習会」を実施する。 年1回(1回) ①-3 食に関する展示や食育通信の発行を通して、生徒への啓発を行う。 年2回(2回) ①-4 保健だよりの発行 12回(12回) ①-5 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-6 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回) ①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回) ② 防災啓発活動の実施 年1回 ③ 清掃状況の点検と改善 年3回	評価指標の達成度 ①-1 食に関するアンケートを実施し、調理実習などに活用している。 ①-2 1月の学年末考査後に実施。 ①-3 11月の文化祭等で展示を実施。 展示 2回 食育通信 3回発行 ①-4 保健だより発行 12回 ①-5 ホームルーム活動 1回 ①-6 薬物乱用防止教室 1回 ①-7 心肺蘇生法講習会 1回 ② 9月1日防災アピールは各教室にて環境委員が実施。 7月に地震津波避難訓練と講演会、12月に火災避難訓練を実施。 ③ 清掃活動の点検 3回実施	評定 A A A	総合評価 A (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かした。 ①-2,3 12月にフードデザイン授業で遊山箱弁当の講習会を行い3年生32名が県産の食材を使い弁当を作った。食育通信は、年間を通してフードデザインを選択している生徒が中心となって作成し、季節にあった食生活を示したり、環境に配慮した持続可能な食生活について啓発を行ったりした。 ①-4~7 生徒が抱える健康課題に対して、関係機関と連携しながら、保健指導・講習会等を実施し、適切に対応した。 ② 生徒が主体となって防災意識を高めることができるよう、避難訓練時には環境委員が避難経路の確認を行った。 ③ 環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。 ④-1,2 ゴミの分別、節電・節水を各クラスで紙面で呼びかけた。しかし、電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめでの報告となるので意識を定着させるのは難しい。 ⑤ 講演等だけでなく、ホームルームや授業等において、主権者としての意識を高めることが必要である。また、教員の意識の醸成も必要である。	② 先日起こった他県での地震では学校施設も大変な被害に遭われている。徳商の校舎が液化や倒壊に耐えられないことや、教員も被災者となる大地震の際に対応できる組織作りが求められる。 ①-1 食生活への関心が高いということを活用して、地産地消や食品ロスを考える食育だよりの充実を図りたい。本年度の状況を踏まえきめ細やかな指導を継続して行う必要がある。 ①-2,3 生徒が食生活を見直せるような呼びかけとして、生徒自身でできる方法を考えて実践につなげていきたい。 ①-4~7 健康に好ましい生活習慣を築き、自己管理できる生徒を育成するために指導を継続する。 ② 避難訓練では環境委員は避難経路の確認等の活動で主体的に取り組むことができた。全校生徒が防災についてさらに主体的に取り組むことができるよう、方策を考えたい。防災クイズを全員で取り組んだことで意識の向上は見られる。さらに様々な災害を想定して機会を設けて行いたい。 ③ 各教室のゴミ箱の設置や分別の状況を知る上で役立った。今後も継続していく。 ④-1,2 ゴミの収集場所を徹底していく。水・電気の使用量をグラフにして教室掲示を行った。さらに生徒による節水・節電を呼びかけたい。 ⑤ 現代社会の課題に対する関心を高めることにより、主権者意識の醸成を図る。
		活動計画 ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 PTA総会、文化祭の時に実施予定。 ①-4 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への啓発・掲示を行う) ①-5 生徒の健康課題を取り扱い、生活の改善を図る。 ①-6 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。 ② 防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③ 環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。 ④ 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ ホームルーム活動や主権者教育に関する資料や生徒による発表会、講演会等により、自らが国家を構築する主権者であることに気づかせ意識を深化させる。	活動計画の実施状況 ①-1 食に関するアンケートを実施した。 ①-2 小麦粉を使った料理コンクールへの参加。3年生全員が出品した。 ①-3 健康に関する販売・展示を通して情報発信を行った。 ①-4 保健だよりの発行、文化祭保健展、掲示物等を通して健康に関する情報を発信した。 ①-5 11/9ホームルーム活動を実施し、心身の健康づくりのための取組を行った。(1年生生活習慣・2年生心の健康・3年生歯科保健) ①-6 1学年を対象に、薬物乱用防止教室を実施した。 ①-7 1学年を対象に、消防署による普通救命講習を実施した。 ② 避難訓練では環境委員が避難経路の確認、誘導を行った。防災クイズを通して防災意識を高めることができた。 ③ 学期毎に行った。身の回りの環境や節電・節水を気遣えるように定期的実施していきたい。 ④-1 清掃時ゴミ出しの場所に担当教諭と係生徒が立ち、ゴミの分別をチェックしている。 ④-2 電気の使用量・水道使用量をグラフにして各教室に掲示し節電節水を呼びかけ、自分たちにできることを考える機会を作った。 ⑤ 徳島市選挙管理委員会による講演、模擬			

投票、鳴門教育大学の井上奈穂准教授による講演、3年生による発表会を実施した。また、授業等においても主権者としての意識醸成に努めた。

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成